

2024年3月期第2四半期 決算説明
中期経営計画「ローリングプラン2023」の進捗について



カーリットホールディングス株式会社

CODE : 4275

■ 2024年3月期第2四半期 決算概要

■ 2024年3月期 通期見通し

執行役員 岡本 英夫

■ 中期経営計画「ローリングプラン2023」の進捗について

代表取締役兼社長執行役員 金子 洋文

2024年 3 月 期 第 2 四 半 期 決 算 概 要

決算概要

< 連結損益計算書 > 累計

	2023年3月期第2四半期 実績 (単位：百万円)	2024年3月期第2四半期 実績	差異	
			増減率	
売上高	17,586	17,672	+86	+0.5%
売上原価	13,433	13,123	△310	△2.3%
販売費及び一般管理費	3,047	3,164	+117	+3.8%
営業利益	1,104	1,384	+280	+25.3%
経常利益	1,287	1,564	+277	+21.6%
純利益	951	1,173	+222	+23.4%

特別利益 投資有価証券売却益 117
 特別損失 固定資産除却損 17

(単位：百万円)	売上高			営業利益		
	前第2四半期実績	当第2四半期実績	差異	前第2四半期実績	当第2四半期実績	差異
化学品	10,073	9,936	△137	774	790	+15
ボトリング	2,248	2,463	+214	△71	119	+191
金属加工	3,672	3,678	+5	210	276	+65
エンジニアリングサービス	1,879	1,866	△12	264	309	+45
報告事業部門計	17,874	17,944	+70	1,178	1,495	+317
連結合計	17,586	17,672	+86	1,104	1,384	+279

【化学品セグメント ①】

化薬分野	
産業用爆薬	↘ 石灰砕石需要の減少に加えて原材料価格の高騰などにより、減収減益
自動車用緊急保安炎筒	↗ 自動車生産の増加に伴い需要が増え、増収増益
高速道路用信号焰管	↗ 交通量が回復し、需要が増え、増収増益
煙火関連	↗ 販売品目の構成見直しにより減収するも、花火大会の増加などで収益は増加し、増益
宇宙産業	— 固体推進薬開発を顧客と進行中。初号機打上げに向け射場へ納品完了
受託評価分野	↗ 危険性評価試験・電池試験ともに電池開発活況継続により増収増益
化成品分野	
塩素酸ナトリウム	↗ 紙パルプ漂白用途の需要に対して安定した供給を進め、増収増益
過塩素酸アンモニウム	↗ 防衛用途の需要が増えたことにより、増収増益
過塩素酸	↘ 国内外の需要増加により増収、原料価格の高騰などにより減益
電極関連	↗ 顧客在庫調整およびスポット受注減により減収、高付加価値製品の販売増により増益
電子材料分野	↘ アジア圏をはじめとする海外需要の低迷継続、国内は顧客在庫調整で減収減益 性能向上品や環境規制対応品などの製品開発・営業活動に注力

【化学品セグメント ②】

セラミック材料分野	↘ 国内砥石・研磨布紙メーカーの需要低迷により、減収減益
シリコンウェーハ分野	↘ 世界的な半導体需要の低迷を受け、主要顧客の需要の落ち込みにより、減収減益 高付加価値製品の用途拡大、小口径ウェーハ市場の新規開拓とシェア拡大、既存製品群の生産性向上といった活動に注力

【ボトルングセグメント】

ペットボトル飲料 缶飲料	↗ 個人消費とインバウンド需要で順調に推移。 加えて、適正価格の維持・コスト改善の取り組みで増収増益
-----------------	---

【金属加工セグメント】

耐熱炉内用金物	↗ 安定的成長と採算性重視を目的とした前期の関連子会社売却、販売品目の構成見直しにより減収するも、適正価格の維持や強みある商品へのリソース集中等の推進により、増益
各種金属スプリング・プレス品	－ 自動車向け・建設機械向けともに好調で増収。一方、原料価格の高騰などの影響により利益は横ばい

【エンジニアリングサービスセグメント】

建築・設備工事	↘ 大型工事案件および収益性の高い案件が得られず、減収減益
塗料販売・塗装工事	↗ 市場環境の好調により、増収増益
構造設計	↗ 収益性の高い案件の増加により、増収増益

2024年3月期 通期見通し

通期見通し

< 連結業績予想 > 9/11発表値

		(単位：百万円)	2023年3月期 実績	2024年3月期 予想	差異	増減率
売上高	第2四半期		17,586	17,672	+86	+0.5%
	通期		36,008	38,000	+1,992	+5.5%
営業利益	第2四半期		1,104	1,384	+279	+25.3%
	通期		2,640	3,150	+510	+19.3%
経常利益	第2四半期		1,287	1,564	+277	+21.6%
	通期		2,910	3,400	+490	+16.8%
純利益	第2四半期		951	1,173	+222	+23.4%
	通期		2,246	2,600	+354	+15.7%
期末配当	1株当たり		20円	20円	—	—

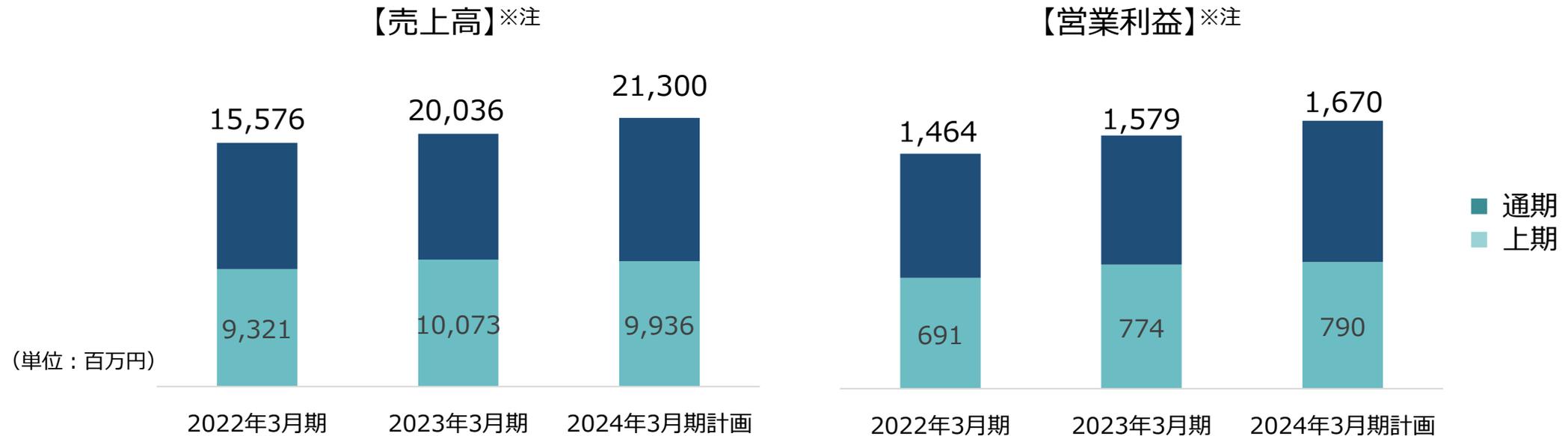
通期見通し

< 連結・事業部門別 >

(単位：百万円)	売上高			営業利益		
	2023年3月期 実績※注	2024年3月期 計画	差異	2023年3月期 実績※注	2024年3月期 計画	差異
化学品	20,036	21,300	+1,264	1,579	1,670	+91
ボトリング	4,774	5,000	+226	151	480	+329
金属加工	7,601	7,300	△301	415	530	+115
エンジニアリング サービス	4,203	5,000	+797	651	690	+39
報告事業部門計	36,615	38,600	+1,985	2,798	3,370	+572
連結合計	36,008	38,000	+1,992	2,640	3,150	+510

※注 2023年3月期業績は旧報告セグメントの実績値に、シリコンウエーハ分野の実績値を単純に加減算した参考値です

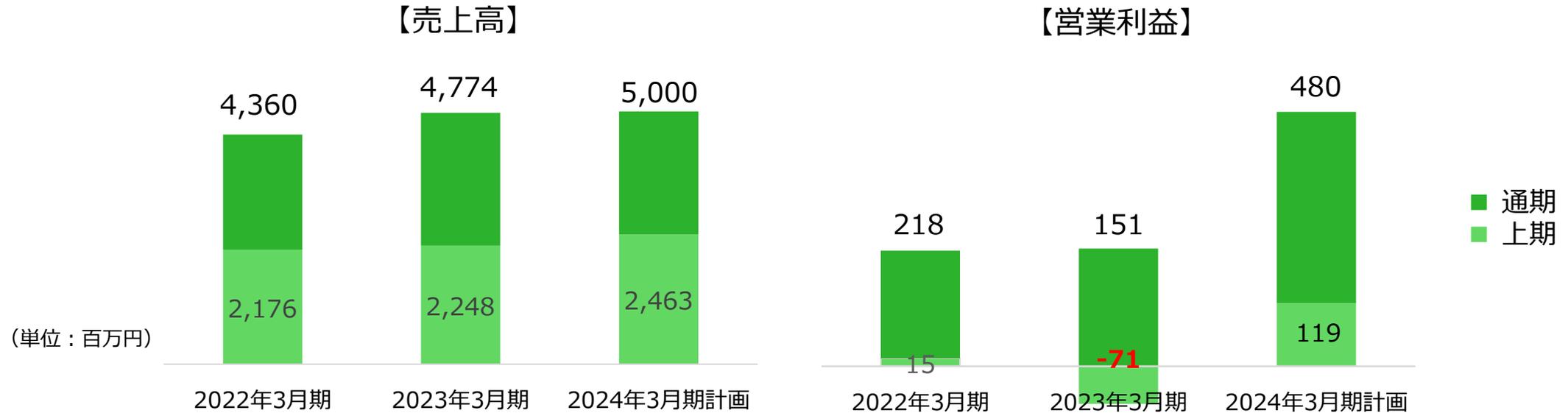
通期見通し < 化学品セグメント >



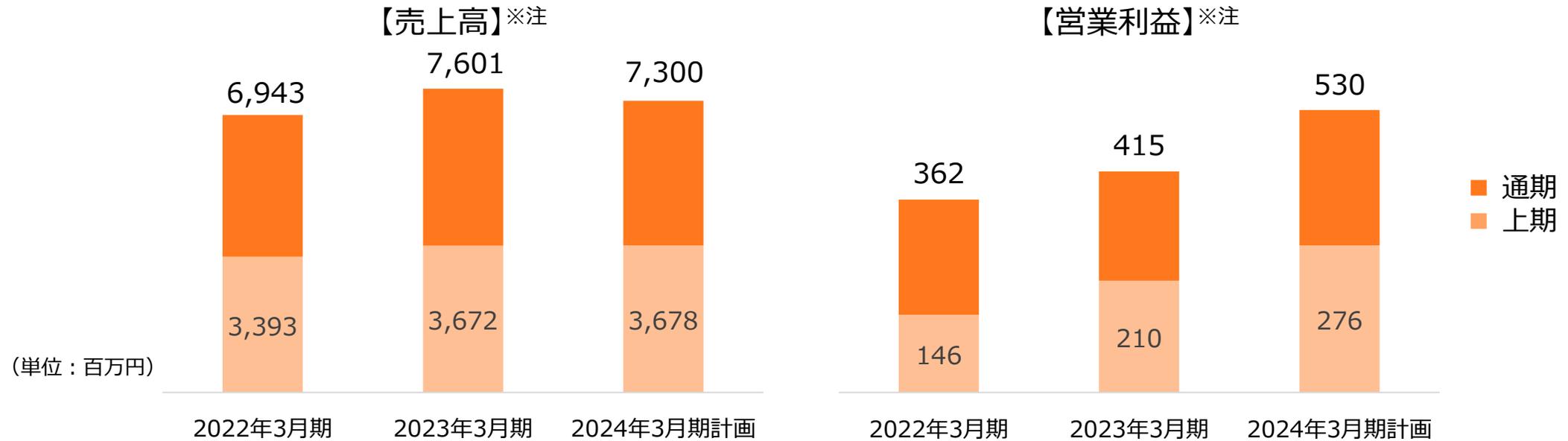
半導体市場の低迷が継続し、電子材料やシリコンウェーハ等の電子機器関連材料の需要が落ち込む一方、自動車向け製品や基礎化学品関連の販売は堅調に推移する見通し

※注 2022年3月期および2023年3月期業績は旧報告セグメントの実績値に、シリコンウェーハ分野の実績値を単純に加減算した参考値です

通期見通し <ボトリングセグメント>

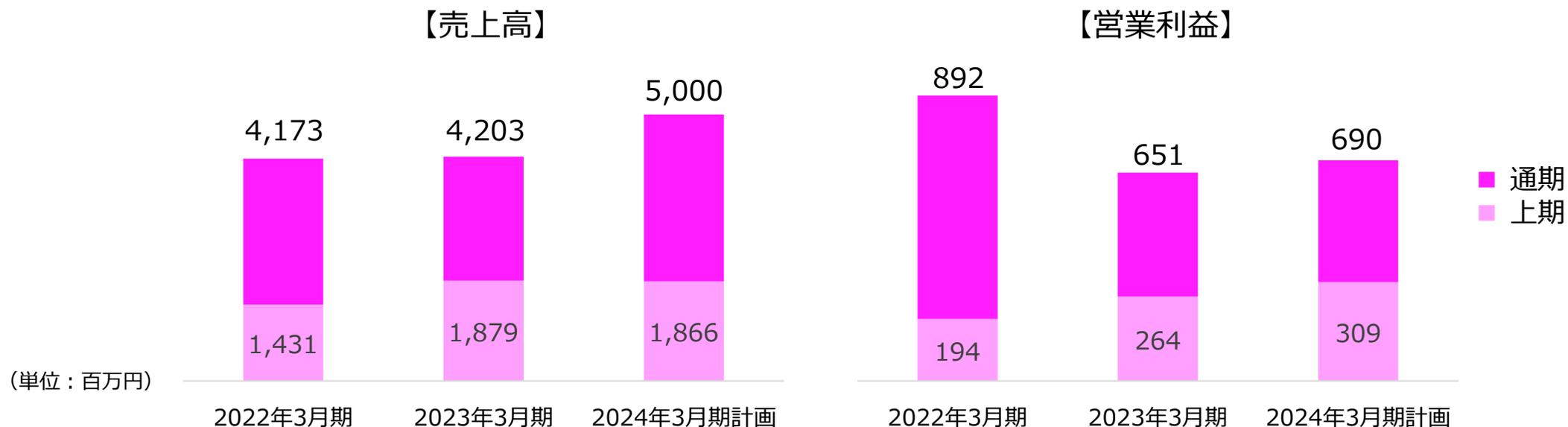


物価高や海外経済減速が下押し要因となるも、
インバウンド需要の復調と冬シーズンの飲料需要の高まりによって
国内飲料消費が増え、増収増益が続く見通し



販売品目の構成見直しなどによる減収傾向にあるものの、
 自動車・建機等の需要は日本国内の経済動向にあわせ堅調に推移する見通し
 適正価格の維持や強みある商品へのリソース集中といった取り組みを推進

※注 2022年3月期および2023年3月期業績は旧報告セグメントの実績値に、シリコンウエーハ分野の実績値を単純に加減算した参考値です



建築・設備工事分野では競争環境の激化傾向が続くものの、
塗料関連や構造設計分野の市場環境は、
日本経済の動向にあわせ、堅調に推移する見通し

中期経営計画 Challenge 2024

「ローリングプラン2023」の進捗について

「ローリングプラン2023」の背景

【背景】PBR 1倍以上の市場評価を目標とし、
資本コストや株価を意識した経営の実現が要請されている

ローリングプラン2023の目的

- ✓ PBRの向上
- ✓ 企業価値の向上



- ◆ ROEとPERの向上を目指した具体的な取り組みのうち、
2023年度上半期の進捗状況について、いくつかの事例を交え、ご紹介する

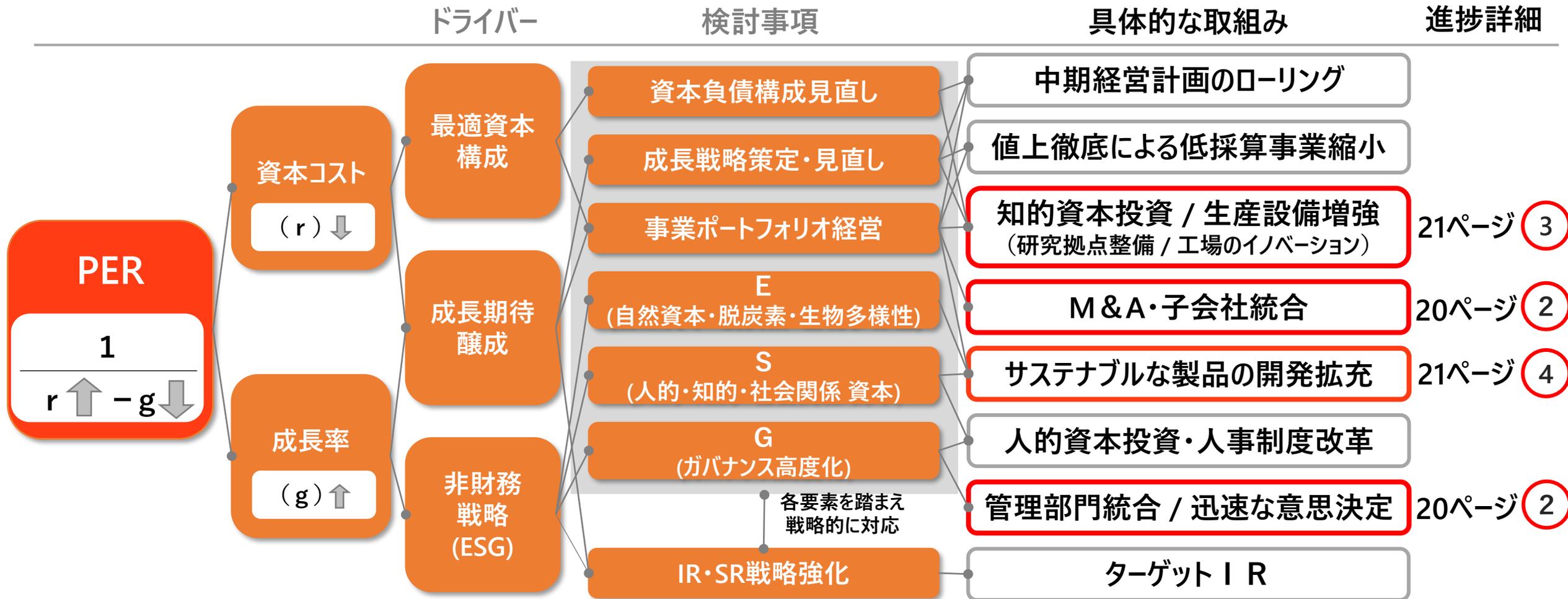
ROE向上に向けた考え方と取組み

- ◆ PBRを向上させるには、ROEを高めることが出発点かつ極めて重要
- ◆ 中長期的な価値創造ストーリーに基づき具体的な打ち手を計画的に実施



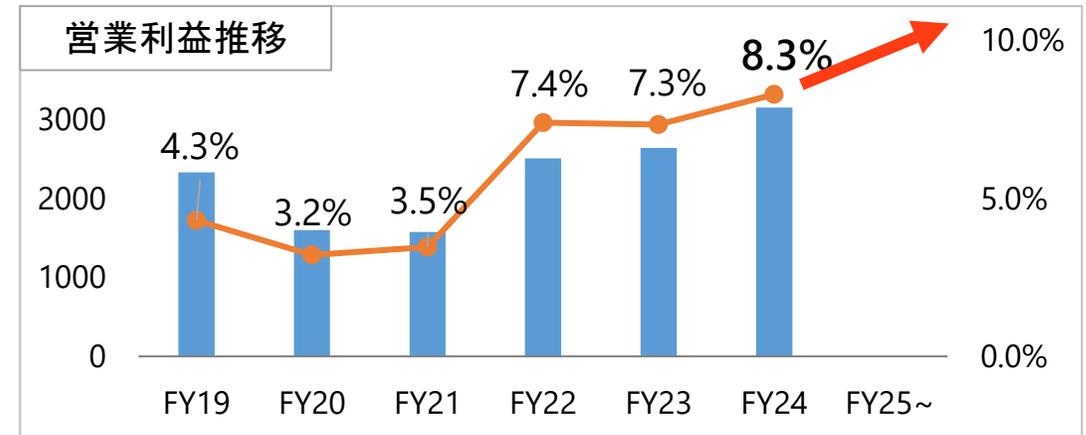
PER向上に向けた考え方と取組み

- ◆ PBRを向上させるには、利益成長の期待値とされるPERを高めることも重要
- ◆ PER向上には成長戦略の策定実行に加え、財務と非財務両面への取組みを通じて資本コストを低減



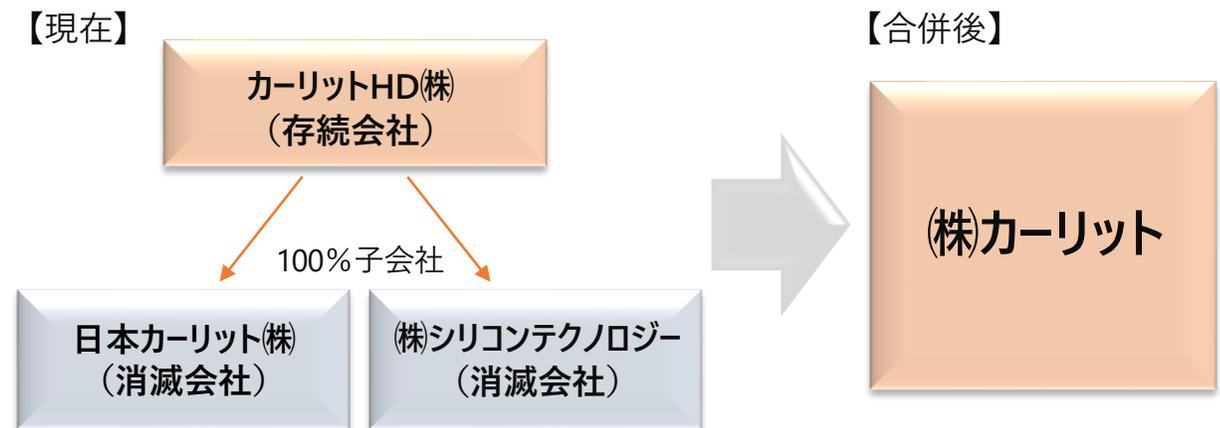
① 営業利益率+3%~up

- ◆ FY24においては、営業利益率 8.3% (約+1%)を見込む
- ◆ 各セグメントにて原料価格等の高騰に対し、適正価格を維持
- ◆ 化学品セグメント(煙火関連)や金属加工セグメントにて、取扱品目の見直しを実施
- ◆ 高付加価値が期待される電子材料分野、シリコンウェーハ分野は減収・減益傾向。



② 3社統合（管理部門統合、子会社の整理・統合等）

- ◆ 中期経営計画 戦略「事業インフラの再構築」の一環
- ◆ 目的
 1. PBR改善に向け、事業持株会社制への移行による意思決定の迅速化
 2. 管理部門の業務統合によるスリム化
 3. 3社統合による人員リバランス（人的資本の再分配）



③ 生産設備増強（工場のイノベーション）

- ◆ 過塩素酸アンモニウム増産計画に着手し、2023年11月より第1期の設備建設工事を本格化
- ◆ H-II A / B ロケットやH3 ロケットなどを始めとした固体ロケットブースタ、防衛産業用途の固体推進薬の主原料として使用
- ◆ 防衛用途の需要の高まりおよび宇宙産業を含めた将来需要予測を踏まえ、現状能力の2～3倍の生産能力を目指した増産計画に着手



設備建設工事が行われる
日本カーリット 群馬工場
(左：工場全景、下：工場正門)

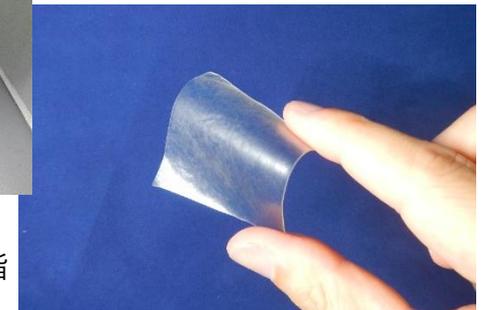


④ サステナブルな製品の開発拡充

- ◆ 燃料電池利用の拡大に向けた、産官学連携による研究開発事業が開始
グループ企業や社外パートナー企業との共同研究により、高出力・高耐久性を有する水電解装置の実現に向け、開発を推進
- ◆ デンプンなどに代表されるバイオマス由来成分を原料に、高い機能性と生分解性を併せ持つ、新しい素材の開発



左：水電解装置



右：デンプン由来誘導体樹脂
(テストサンプル)

「ローリングプラン2023」の狙い

◆ カーリットグループ営業利益率 7%→10% を目指して



2023年度
経営方針

中期経営計画「Challenge2024」達成のため
 「改革と成長」による営業利益率 **+3%~** の実現

注力・育成領域投資 **+**1%

株主還元 **+**1%

人的資本投資(社員還元) **+**1%

ローリングプラン2023では、**3%** 増やした利益を、**3等分**して使うことを目指す

IRに関するお問合せ先

カーリットホールディングス株式会社
経営企画部 広報・サステナビリティ推進室
メール：pr@carlit.co.jp

信 頼 と 限 り な き 挑 戦



無 限 の 可 能 性 を カ タ チ に